

目次

[概要](#)
[前提条件](#)
[使用するコンポーネント](#)
[表記法](#)
[背景説明](#)
[関連情報](#)

概要

このドキュメントでは、発信者のハング アップではなく、HotEvent 要素を使用して一部の VoiceXML のエラー イベントを正常に処理できる方法について説明します。

前提条件

使用するコンポーネント

この文書に記載されている情報は Cisco Unified Call Studio に、ユニバーサル版に基づいています。

表記法

ドキュメント表記の詳細は、『[シスコ テクニカル ティップスの表記法](#)』を参照してください。

背景説明

症状： コールフロー デザイナーはよりもむしろ発生するようにします DEFAULT エラー処理がよりよくある VoiceXML エラーイベントを説明し、コールフローでそれらを処理したいと思いません。

解決策： HotEvent 要素は要素 設定で指定どおりに特定のイベントを聞き取ります。そのイベントが発生するとき、終了状態だけ続かれ、コールフローは続くことができます。いくつかのイベントを、ハングアップのようなつかまえることは、Cisco Unified Call Studio の正常な機能性に影響を与える場合があるのでユニバーサル版、そこにですエラー状態の発信者のエクスペリエンスを改善するためにコールフローで処理できる複数のイベント落胆します間。ブラウザがコールの内で投げることができるイベントのリストのための音声ブラウザ ドキュメントを参照して下さい。

ダウン状態になれば段階的に自動サーバ 再始動 (ASR) サーバをどのようにの処理できるか例はここにあります:

1. イベントをその音声ブラウザ スローこの場合聞き取るために HotEvent を設定して下さい; それは resource.unavailable.asr のよう何かである場合もあります。
2. HotEvent から Cisco Unified Call Studio に、小さなエラーは発生したことそれらはコールを続けることができることを発信者に説明するユニバーサル版、要素終了して下さい。
3. アプリケーション転送要素に Cisco Unified Call Studio の終了状態を、ユニバーサル版、要素接続して下さい。

4. アプリケーションの dtmf だけバージョンに発信者を差し向けるのにアプリケーション転送要素を使用して下さい。

このアプローチを使うと、ASR サーバがダウン状態になれば、発信者はコールを続けることができます。発信者 入力がどのようにに保存されるか依存、データを再入力するか、またはコールフローに戻る可能性のある 発信者必要少なくとも発信者は以降を呼出す必要なしで Interactive Voice Response (IVR) エクスペリエンスを続けることができます。

この使用方法のもう一つの例は発生する可能性がある error.badfetch のため Media Server がダウン状態になる場合です。そのケースでは、カスタム動作要素にルーティングするのにバックアップメディア サーバを代りに示すためにデフォルトパスを変更する HotEvent を使用できます。

関連情報

- [テクニカルサポートとドキュメント - Cisco Systems](#)